

第7回持続可能な開発に関するアジア太平洋  
フォーラム:   
様式（モダリティ）とハイレベル政治フォーラムへの意義から見る今年の構成解説

小池 宏隆

公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)

2020年3月

第7回持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム（APFSD7）が、国連アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）により、2020年3月25日から27日にタイ・バンコクのUNカンファレンスセンターにて開催される予定である。過去の、少なくとも2017年以降のAPFSDとの大きな違いとして、APFSD7 ではレビュー対象となる持続可能な開発目標（SDGs）のゴール群が存在しないことが挙げられる。これは、2020年度のSDGsに関する「ハイレベル政治フォーラム（HLPF）」が、レビュー対象となるSDGsのゴールを設定する代わりに、2019年9月のSDGsサミットで採択された政治宣言である「加速された行動と変革の道筋： 持続可能な開発に向けた行動と展開の10年間の実現 (Accelerated action and transformative pathways: realizing the decade of action and delivery for sustainable development)」に注力するとグローバルレベルで決定したことを受けたものである。

この決定を馴染みがないものだと受け取る向きもあるだろう。国連会合の手続きにそれほど詳しくない人々にとっては、毎年テーマとなるゴールが設定されるのがいわば共通認識だったからである。**本稿は、より広範な読者が抱くであろう、「なぜ過去のAPFSDではレビュー対象となるゴールが設定されてきたにもかかわらず今年は異なるのか」とのシンプルな問いに答えるものだ。**そのためには必然的にHLPFがもともと有する法的義務の詳細と、APFSDを含む他の会合との関係性についても言及する必要がある。同様に、HLPFが具体的にレビュー対象のゴールを設定しない中での今年のAPFSDの焦点に加えて、追加的な背景についても触れたい。それらにより、APFSDの枠組みがいかに、そしてどのような意図で形作られており、HLPFがグローバルな持続可能性のアジェンダ設定にどれだけ大きな影響を与えているかについても、本稿が総合的な情報を提供できるものと考える。当該領域（特に国際的なSDGsに関わるプロセス）での経験を有しながらもあまりAPFSDにこれまで注意を向けて来なかった読者に対しては、HLPFの枠組み予測にあたり、なぜAPFSDに着目すべきなのか、その価値を提示できることを期待する。

# Modality of APFSD and HLPF

## 1.1 APFSDとHLPFの関係性

前述の通り、APFSDはHLPFのテーマや焦点を反映している。これは、APFSDがグローバルプロセスにつながる地域会合とみなされているためである。よって、APFSDを理解し、その政策的方向性と重点領域を予測するには、HLPFに関する多大な知識が必要となる。下の比較表は、APFSDとHLPFの関連性を示す。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | **APFSD (2014 was the inauguration)** | **HLPF** |
| **2013** | 該当なし | Building the future we want: from Rio+20 to the post-2015 development agenda |
| **2014** | Achieving the Millennium Development Goals and charting the way for an ambitious post-2015 development agenda, including the Sustainable Development Goals | Achieving the MDGs and charting the way for an ambitious post-2015 development agenda, including the SDGs |
| **2015** | Strengthening integration, implementation and review for Sustainable Development in Asia and the Pacific. | Strengthening integration, implementation and review - the HLPF after 2015 |
| **2016** | Regional priorities for the implementation of the 2030 Agenda for Sustainable Development in Asia and the Pacific. | Ensuring that no one is left behind |
| **2017** | Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing Asia-Pacific (1, 2, 3, 5, 9 and 14 and 17) | Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world |
| **2018** | Transformation towards sustainable and resilient societies (6, 7, 11, 12, 15, 17) | Transformation towards sustainable and resilient societies |
| **2019** | Empowering people and ensuring inclusiveness and equality (4, 8, 10, 13, 16, 17) | Empowering people and ensuring inclusiveness and equality |
| **2020** | Accelerating action for and delivery of the 2030 Agenda in Asia and the Pacific (No goals. Six entry points identified in the Global Sustainable Development Report 2019) | Accelerated action and transformative pathways: realising the decade of action and delivery for sustainable development |

出典: 筆者が次のウェブサイトを参照し、表としてまとめた。  
HLPF ウェブサイト <https://sustainabledevelopment.un.org/hlpf>   
APFSDウェブサイト <https://www.unescap.org/apfsd/7/previousSession.html>*.*

本稿はHLPFについての紹介から始めるものとする。

## 1.2 HLPFの歴史的起源と様式

HLPFは、2012年6月に開催された国連持続可能な開発会議（United Nations Conference on Sustainable Development，リオ＋20）の成果文書である「The Future We Want（私たちが求める未来）」に端を発している。この文書には、「持続可能な開発の実施に関するフォローアップ」（第84項）を担う普遍的な政府間ハイレベル政治フォーラムの設立を規定する記述がある。その直接的なフォローアップとして、2013年の国連総会決議（GA Res） 67/290 において、HLPFに一連の具体的なマンデートが与えられた。これが、HLPFの基礎的文書となっている。しかしながら、このGA Res 67/290には各年のテーマが含まれていない。これは、加盟国がそのフォーマットと様式を定めたのが2013年であり、そもそもテーマを決めるのに前提となる「持続可能な開発のための2030アジェンダ（The 2030 Agenda for Sustainable Development）」（当時は、ポスト2015開発アジェンダと呼ばれていた）採用前だったためである。 一般的に知られている、各年のレビュー対象となるSDGsのゴール群は、2016年7月29日に採択されたGA Res 70/299「グローバルレベルでの持続可能な開発のための2030アジェンダのフォローアップとレビュー」で設定されたものである[[1]](#footnote-1)。

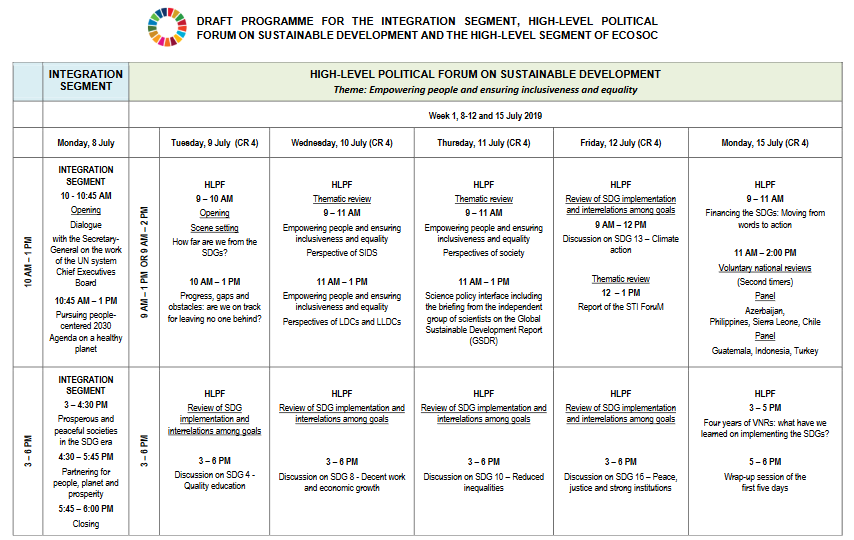
HLPFは、その本質に加えて、持続可能な開発のすべてのコミットメントのフォローアップとレビューの中心と見なされていることから、他の多くの会議やフォーラムもそのテーマに沿う形で実施されている。例えば、国連憲章に基づいた機関の1つである国連経済社会理事会（ECOSOC）とHLPFの毎年のテーマは互いにすり合わせる必要があると決定された。他にも多くのHLPFの地域会合と位置付けられている会合が、最重要テーマとしてその年のHLPFのテーマを採用する傾向がある。このように、ECOSOCとHLPFの焦点をどう設定するかは、単なる7月開催のいち国連会議のテーマにとどまらず、持続可能な開発にグローバルに取り組む上での軸足を定めることなのである。

上述のとおり、GA Res 70/299はレビュープロセスの「サイクル」を定めているが、決議は2019年までしか、テーマの方向性を示していない。すなわち、2020年HLPFのテーマは空白のままであった。先に詳説したように、開催場面や時期を問わず、HLPFのテーマは種々のフォーラムに大きな影響を与える[[2]](#footnote-2)。そのため、加盟国が早期に決定すべき主題と見られていた。同決議では、第74回セッション（2019年9月～2020年9月）の間で、第1サイクルをレビューすることを決めていたものの、それでは時期的に遅いため、2019年から2020年にかけてのプロセスを代替的に方向づける他のテーマが必要となった。

この問いに答えるべく、2018年に加盟国はGA Res 72/305を採択し、パラグラフ4で次のように宣言した。「総会は、2016年7月29日の決議70/299の規定に留意したうえで、持続可能な開発目標に関するハイレベル政治フォーラムおよび経済社会理事会に主題を1つ採用する。理事会の各セグメントのテーマは、それぞれの機能を念頭に置いて、その主題の特定の側面に焦点を当てる（以下略）」。これは、加盟国が2020年に開催されるHLPFとECOSOCのためだけに、１つのテーマを採択することを意味している（前述の通り、両プロセスでのテーマは一致するようになっている）。

GA Res 72/305に基づくこの決定に基づき、2019年10月11日、ティジャニ・ムハンマド＝バンデ 第74回国連総会議長（ナイジェリア）が、2019年～2020年のテーマ特定プロセスのファシリテーターとして、ニュージーランドの常任代表者であるクレイグ・ジョン・ホークを任命した。 ニュージーランドが提示した最終草案は2019年11月14日に、特にコメントや異議なく可決された[[3]](#footnote-3)。 ここで合意されたテーマこそが、「**加速された行動と変革の道筋： 持続可能な開発に向けた行動と展開の10年間の実現**(***Accelerated action and transformative pathways: realizing the decade of action and delivery for sustainable development.)*」**である。

HLPFに精通している読者の中には「ゴール設定がないのに、テーマレビューで何をするのか」と疑問に思う向きもあるだろう。それは的を射た質問である。下図に示すように、2017年以降HLPFの最初の週はレビュー対象となるゴールに大部分を割いていた。何がそれらを代替するかについての明確な指示はない。しかし、それこそがAPFSDを理解することで、読者が今後起こりうる選択肢を推測して準備ができる理由である。この点については次章で触れる。

出典: UNDESA, https://sustainabledevelopment.un.org/hlpf/2019#programme

# 2020年度APFSDのフォーカス

今年のAPFSDのテーマである「アジア太平洋地域における2030アジェンダの促進と実施（Accelerating action for and delivery of the 2030 Agenda in Asia and the Pacific）」は、HLPFのテーマである「加速された行動と変革の道筋： 持続可能な開発に向けた行動と展開の10年間の実現」を反映させたものである。これらのプログラムは2点にフォーカスしている。1つは、「持続可能な開発に関するグローバルレポート（Global Sustainable Development Report：GSDR）」で示された提言事項、もう1つは「アジア太平洋地域における持続可能な開発実施に向けた地域ロードマップ（Regional Roadmap for Implementing the 2030 Agenda for Sustainable Development in Asia and the Pacific）」である。現時点でのプログラムを下図にて示す。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **2020** | | **2019** | |
| **25 March** | | **27 March** | |
| **09:00 -12:00** | Opening of the forum  Session 1: Review of regional progress on SDGs five years into the implementation of the 2030 Agenda | **09:00 -12:00** | Opening of the forum  Session 1: Panel on “Empowering people for a more inclusive and equal Asia-Pacific” |
| **13:30 - 15:00** | Session 2: Opportunities and entry points for accelerated action | **13:30 - 15:00** | Session 2: Progress in the Implementation of SDG17 |
| **15:00 - 18:00** | Session 3: Parallel roundtables: Exploring the entry points for accelerated action | **15:00 -18:00** | Session 3: Parallel Roundtables for in-depth Review of SDG 4, 8, 10, 13, and 16 |
| **26 March** | | **28 March** | |
| **09:00 - 12:00** | Session 4: Strengthening follow up and review of the 2030 Agenda at the national level: the role of the VNRs | **09:00 – 12:00** | Session 4: Voluntary National Reviews |
| **14:00 - 15:30** | Session 5: Strengthening follow up and review of the 2030 Agenda at regional level | **14:00 – 15:30** | Session 5: Where are we on the road map? |
| **15:30 – 17:00** | Session 6: High level panel: Committing to transformative action | **15:30 – 16:50** | Session 6: Regional perspectives |
| **27 March** | | **29 March** | |
| **09:00 – 12:00** | Special Session for UN Systemwide Support to regional implementation of the 2030 Agenda | **09:00 – 12:00** | Special Event: Asean High‐Level Dialogue On Complementarities |
| **14:00 – 15:00** | Circulation of Draft report and Chairs’ Summary for review by delegations | **14:00 – 15:00** | Circulation of Draft report and Chairs’ Summary for review by delegations |

*Source: UNESCAP* [*https://www.unescap.org/apfsd/7/*](https://www.unescap.org/apfsd/7/)[*https://www.unescap.org/apfsd/6/*](https://www.unescap.org/apfsd/6/)

2020年度のセッション2および3は、「加速させた行動のエントリーポイント（the entry points for accelerated action）」との位置づけである。これらはGSDRに関連するものであり、以下に詳述する。セッション４および5は、APFSDのレビューと関連する。今年、見直しが予定されているHLPFと同様に、ESCAPはAPFSDそのものをレビューするセッションを含めることを決定した。一方、フォーラムにおける実際の議論がどの程度意義のあるインプットを提供できるかは明確ではない。

GSDRでは、持続可能な開発に関するグローバルレポート)は、Rio+20の成果として義務付けられた2030アジェンダのフォローアップとレビューの一部であり、GA Res 67/290で確認されるとともに、2016年のHLPF閣僚宣言の附属書(E/HLS/2016/1)で明確な手順が定められた。それは、科学と政策間のインターフェースを強化し、また科学的根拠に基づいた政策ツールを供給する手段として機能している。2016年までは、UNEDESAは本報告書のプロトタイプを用意してきた。「持続可能な開発に関するグローバルレポート：スコープ、頻度、方法論および持続可能な開発目標進捗報告との関係性（*Global Sustainable Development Report: scope, frequency, methodology and relationship with the Sustainable Development Goals progress report*）」に規定された様式のもと作成された最初の報告書は2019年に公表された。

SDGsサミットに備えて、15名の独立した科学者がこのレポートの初版を作成した[[4]](#footnote-4)。本レポートは、**変革に向けての6つのエントリーポイント**を特定した。1. 人間の健康および能力（Human wellbeing and capabilities）、 2. 持続可能な経済（Sustainable economies）、3. エネルギーの脱炭素化とアクセス（Energy decarbonisation and access）、4. 食糧と栄養（Food and nutrition）、5. 都市および周辺部の開発（Urban and peri-urban development）、6. 人類共有の資産（Global commons）である。レポートはまた、これらの領域横断的に変化をもたらす4つのテコを次のように示している。 ガバナンス、「目的を持って」展開された経済と金融、個人および社会レベル双方での振る舞いと集団行動、そして科学技術だ。これらを組み合わせたものを道筋として提案している。今年のAPFSDは、これらエントリーポイントをテーマのサブセットとして取り上げる。これにより、フォーラムにおいて、焦点の定まった建設的な議論が促進されることであろう。

HLPFで重要視されているにもかかわらず、自主的国家レビュー（VNR）が2020年のHLPFのプログラムで直接的には言及されていないことも注意を向けるべきである。ただし、VNRがプログラムに含まれることは間違いない。

APFSDを理解することが、HLPFの準備に役立つと上述した理由は、GSDRを論点とするこのアプローチがHLPFに採用される可能性があるためだ。最終的には、ECOSOC議長室の判断となるが、一般的には先例が好まれるものである。私としては、読者各位にはGSDRを研究し、かつAPFSDなどの地域会合に注意を払うことをお勧めしたい。各地域が優先順位をどう認識しているかについての参考となるであろう。先述したとおり、APFSDとHLPFの2会議は紐づいており、かつ親類的な位置付けにあるのである。いずれか一方を理解したい場合でも、双方の会合に注目しておくことが重要である。

本稿は、なぜAPFSDのプログラムにレビュー対象のSDGsのゴール群がなかったのかとの問いから始まった。この問いに答えるべく、本稿においてはAPFSDおよびHLPFにおけるテーマと会議設計の関連を示すとともに、HLPFの歴史と今年の設定を探った。SDGsのレビューサイクルにおけるHLPFテーマは2019年以前が対象で2020年のゴールは設定されていなかったこと、HLPFのレビュープロセスが総会にて進行中であったことを反映して、ESCAPは、GSDRの6つのエントリーポイントおよび APFSD自体のレビューからAPFSDを構成すると決定した。これは、今年のHLPFの詳細なプログラムも同様に設計される可能性がある。結論として、本稿は、APFSDまたはHLPFのいずれかを理解するには、2つが紐づいているものとして捉える必要があることを指摘した。本稿が、今年のAPFSDがどのようなものになるのか、理由とともに着想を与えるものとなれば幸いである。

**Institute for Global Environmental Strategies (IGES)**

Strategic Management Office (SMO)

2108-11 Kamiyamaguchi, Hayama, Kanagawa, 240-0115, Japan

Tel: 046-826-9601 Fax: 046-855-3809 E-mail: [iges@iges.or.jp](mailto:iges@iges.or.jp)

[www.iges.or.jp](http://www.iges.or.jp)

The views expressed in this working paper are those of the authors and do not necessarily represent IGES.

©2019 Institute for Global Environmental Strategies. All rights reserved.

1. 2016 HLPF後のことである。 [↑](#footnote-ref-1)
2. たとえば、2019年持続可能な開発に関するアジア太平洋フォーラム（アジア太平洋の地域HLPF）の準備プロセスとしての最初のサブ地域フォーラムは、2018年8月に開催された。このように、翌年のテーマはHLPFにかなり先立って決定する必要がある。 [↑](#footnote-ref-2)
3. A legal term in Latin is “qui tacet consentire videtur” - "he who is silent is taken to agree.” In the UN, it is a way to adopt the text. If this method is taken, then the person in charge (facilitator, co-chair, etc) usually circulate the final draft (often after several rounds of negotiations) and goes into the silence procedure. It gives a final opportunity to the participating countries to propose changes, amendments and/or deletion. If no country breaks the silence procedure by the deadline, then the text is considered adopted. [↑](#footnote-ref-3)
4. SDGsサミットは、国連総会の後援のもと、HLPFに与えられた名前である。 [↑](#footnote-ref-4)